

第五次総合計画がスタート 景観にも配慮したまちづくりを進めます

多賀城市について

多賀城市の名称は、奈良時代に中央政府が東北支配の拠点として設置した「多賀城」に由来します。多賀城は、奈良、平安時代の陸奥国府で、奈良時代には鎮守府も置かれ、さらには按察使が常駐することから、陸奥・出羽両国を統轄するという、まさに古代東北の政治、文化の中心地でした。

近世の初めになると、多賀城跡が遺跡として認識されるようになり、また、みちのくの歌枕を訪ねて松尾芭蕉らがこの地を訪れたことにより、一躍注目されるようになりました。大正11年、多賀城跡は多賀城廃寺跡とともに、国の史跡に指定されます。そして昭和35年からの本格的な発掘調査により、重要かつ貴重な遺跡であるこ

とがより一層明らかになったことから、昭和41年に特別史跡に昇格し、平城宮、大宰府跡とともに、日本三大史跡の一つに数えられております。

また、多賀城跡内に立つ「多賀城碑」は、「壺碑」の名でも有名です。この碑は、古代東北の解明に重要な記載があり、また、数少ない奈良時代の金石文であるとして、平成10年に国の重要文化財に指定されています。

自治体としては、明治22年の町村自治制により江戸時代以来の13村を統合し、由緒ある多賀城の名を永久に残すために多賀城村として発足しました。その後、昭和17年に海軍工廠が設置されたことに伴い人口が増加し、昭和26年に町制を施行、昭和46年11月1日、3万人特例市の適用を受けて県

下9番目の市となり、現在では人口6万3000人を数える都市となっております。

市民が主役のまちづくり

私は、市長就任以来、一貫して「市民が主役」、そして「市民と協働」の市政運営を進めております。平成23年度を初年度とする第五次多賀城市総合計画の策定においては、多くの市民参画を得るため、58回もの「まちづくり懇談会」を開催し、市民の思いを計画に反映してきたところです。

また、私が提唱し、現在も継続して実施している各地区での「おぼんずき懇談会」や市庁舎ロビーなどでの「市長と話そう 気軽にならな」と茶つとは、実に、この4年間で70回以上も開催しております。実際のまちづくりにおいても、



重要文化財の多賀城碑

躍できる市民が主役のまちへと確実に前進していることを実感しております。

歴史的文化遺産の活用

本市には、国の特別史跡である多賀城跡や多賀城廃寺跡、重要文化財の多賀城碑、さらには、いにしへの都人が数々の歌に詠んだ「末の松山」をはじめ、「沖の井」や「野田の玉川」などの歌枕があります。本年4月からスタートする第五次総合計画においては、「未来を育むまち 史都多賀城」の将来都市像を実現する政策の一つとして、



秋の風物詩・史都多賀城万葉まつり

「歴史・文化を継承し豊かな心を育むまち」を掲げております。

歴史的な風致を維持、向上させ、それらを後世に継承するため、平成20年11月に文部科学省、国土交通省、農林水産省の三省共管で、いわゆる「歴史まちづくり法」が施行されましたが、現在本市では、この法律に規定する「歴史的風致維持向上計画」の認定に向け、計画の申請手続きを行っております。この計画では、多賀城の歴史的風致を維持向上すべき事業案として、多賀城南門の復元、南北大路の整備、歌枕周辺の環境整備、歴史の道史都景観形成事業などを考えておりますが、今後、関係省庁との連携を図りながら、景観にも配慮したまちづくりを進めてまいります。

市制施行40周年を迎えて

本市は、今年、市制施行40周年の節目を迎えます。4月以降、歴史・芸術・文化をテーマとした各種イベントを開催し、多賀城の魅力を全国に発信するとともに、より一層多賀城を盛り上げてまいります。

かつて多賀城は、西の大宰府と

ともに「遠の朝廷」と称され、また、はるかな歌枕の地として、都人の憧れを集めました。そして、東北地方における政治経済の中心として、都からの最先端情報を発信するとともに、異文化を吸収し、さらにそこから、人と物の交流が生

まれた由緒ある地でもありました。今後、この悠久の歴史に培われた風情を後世に伝えるときともに、それらを生かしたまちづくりを進めることにより、街としての品格が継承できるような多賀城を創造していきたいと思っております。

プロフィール

- ◆ 面積 19・65km²
- ◆ 人口 6万2870人
- ◆ 世帯数 2万4776世帯

〔将来都市像〕「未来を育むまち 史都多賀城」
「支えあい・学びあい・育ちあい」
「あなたの笑顔が多賀城をすてきに作る」

〔まちの特徴〕宮城県のほぼ中央、太平洋岸に位置し、仙台市と観光地「松島」を結ぶルート上にあります。市内には、国指定の特別史跡「多賀城跡附寺跡」や重要文化財の「多賀城碑」など多くの歴史的文化遺産があります。平成19年には、多賀城址が、仙台城址や貞山堀など伊達家城下町の遺産、杜の都仙台の並木道とも

に「美しい日本の歴史的風土100選」に選定されました

〔特産品〕多賀城碑拓本(多賀城碑の1/2拓本)、おもわく伝説(古代米で醸造したワイン風味のお酒)、多賀城みそ、多賀城古代漆器

〔観光〕多賀城跡、多賀城廃寺跡、多賀城碑、館前遺跡、柏木遺跡、東北歴史博物館

〔イベント〕多賀城跡あやめまつり(6月)、市民夏祭り(8月)、「壺の碑」全国俳句大会(10月)、史都多賀城万葉まつり(10月)、多賀城市民市(11月)



多賀城市長 菊地健次郎



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

にぎわいと安らぎのまちづくり 市民協働と全域交通ネットワーク

福井市の歴史

福井市は、明治22年に市制が施行されて以来、鉄道の開通や繊維産業の興隆によって、県の政治、経済、文化の中心都市として発展してきました。

さかのほれば、本市の位置する福井平野は、約1500年前に福井で育った継体天皇が治水事業に尽力したことによって、一面の沼地が豊かな沃野に生まれ変わり、穀倉地として注目されたと伝えられています。その後、交易や文化の振興に伴って北陸道の要衝として栄え、中世には一乗谷で朝倉氏が5代103年間にわたり栄華を極めました。

朝倉氏滅亡後は、柴田勝家が現在のJ.R福井駅近くの北ノ庄に居城を構えますが、秀吉の焼き討ち

によってお市の方とともに勝家は自害、本年のNHK大河ドラマ「江」に「姫たちの戦国」にも取り上げられている茶々、初、江の三姉妹は時代に翻弄されることとなります。

幕末には、福井藩主松平春嶽の治下から、懐刀として活躍した橋本左内、五箇条の誓文の原案を作成した由利公正など幾多の人材が輩出されました。

本市は、昭和20年7月の空襲、昭和23年の福井大震災と再度にわたって致命的な打撃を受け、さらに水害、風害と幾度もの災害に見舞われました。しかし、復興への市民の不屈の気概により、今日では近代的な市街地が形成され、県都の中心地としての多様な機能集積が進んで、現在、住みやすさでは全国トップレベルとされる社会基盤を有しています。

市民協働のまちづくり

本市では、小学校区を単位とした「地区」のまちづくり活動を支援しています。住民参加から住民主体へ、さらには「連携・協働」へと段階を経ながらまちづくりの充実を図ってきました。

各地区では、この支援に応え、住民が一人一役を担い、歴史や自然などの特色や地域文化を生かしたまちづくりが展開されてきました。それぞれが、知恵と力を合わせながら、地域資源の再発見や新たな魅力づくりに取り組んでいます。そのような取り組みにより、地域と人、人と人のつながりが芽生え、郷土愛や連帯意識が醸成されて、住民自治力の向上と個性豊かな地域づくりにつながっています。さらに、各地区の活動を基盤と



日本に5カ所しかない国の三重指定「一乗谷朝倉氏遺跡」

の過度の依存が著しく、そのことが公共交通サービスの低下を招き、公共交通利用者がさらに減少するという傾向にあります。この傾向が続けば、一層のサービス低下をもたらし、子どもや高齢者など自動車を使えない人たちの生活への不安につながる懸念が懸念されます。

このため、本市では、既存ストックを生かして誰もが手軽に利用できる、人にやさしく便利な「福井型交通ネットワーク」の構築に取り組みむこととしました。これは、J.R福井駅を中心として、J.R北陸線、えちぜん鉄道三国芦原線、福井鉄道福武線などの南北方向と、えちぜん鉄道山永寺線、J.R越美北線、路線バスによる東西方向に延びる公共交通幹線軸を強化し、幹線軸上にある地域拠点を整備するものです。

具体的には、地域拠点や乗り継ぎ拠点における乗り継ぎの利便性や待合環境の快適性の向上のため、パーク・アンド・ライド駐車場やバス停留所の整備などを進めていきます。また、各地域拠点などを中心として地域内を循環するフリーダーバスの運行にも取り組

んでいます。平成21年度には、公共交通が希薄な合併地区内を循環する地域バスの運行を市の委託事業として開始しました。さらに本年度は、交通空白地域を解消するため、地域コミュニティバス運行支援事業を創設しました。この事業は、地域住民と交通事業者が連携・協働してバスな

どの運行に取り組み、運行費用の一部を行政が支援するものです。今後も、車に依存しなくても身近な地域で市民が安心して快適に過ごせるような生活環境づくりを目指して、交通施策とまちづくりの施策を連携させながら、総合的・戦略的に事業を展開していきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 536.17km²
- ◆ 人口 26万9362人
- ◆ 世帯数 9万6423世帯

〔将来都市像〕人街 自然文化の交響・楽・彩・ふくい

〔まちの特徴〕東に美しい山並み、西に日本海を望み、清らかな九頭竜川、足羽川、日野川が流れる豊かな自然に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成18年2月1日、美山町、越前村、清水町と合併

〔特産品〕コシヒカリ、越前がに、越前おろしそば、越のルビー(ミディットマト)、甘エビ、日本酒、ソースカツ丼、



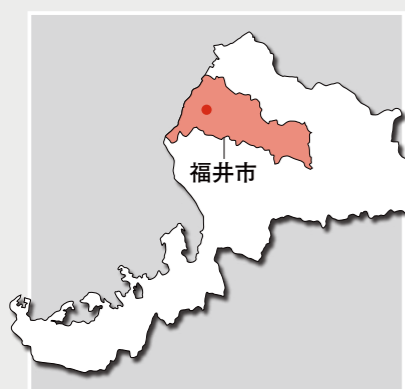
福井市長 東村新一

越前水仙、越前雲丹、繊維製品

〔観光〕一乗谷朝倉氏遺跡、越前海岸、養浩館庭園、足羽山、宮ノ下コスモス広苑、大安禅寺

※一乗谷朝倉氏遺跡は、特別史跡・特別名勝・重要文化財に指定され、金閣寺、銀閣寺、醍醐寺、厳島神社と並び国の三重指定となる

〔イベント〕ふくい春まつり、福井フェニックスまつり、越前朝倉戦国まつり、そばまつりinみやま、こしの水仙まつり、仏舞(国無形民俗文化財)



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



ふくい春まつり「越前時代行列」

福井市の都市交通戦略

福井市の都市交通は、自動車へ

「豊かな自然、快適なくらし、ふれあいの街 青梅」を目指して

60年の節目を迎える青梅市

青梅市は、東京都の西北部に当たる、都心から50km圏の秩父多摩甲斐国立公園の玄関口に位置し、自然環境に恵まれた人口約14万人の都市です。

江戸時代には、市域を横断する多摩川の水運や、青梅街道の整備により、石灰、木材、織物などの産業が活況を極め、さらには宿場町としても繁栄してきました。

昭和26年に、青梅町・調布村・霞村が合併して、都内5番目の市「青梅市」が誕生しました。さらに昭和30年、周辺4村を合併し、現在の市域を形成しています。

本年には市制施行60周年を迎えます。人間で言えば還暦という節目の年であり、心機一転、新たな気持ちで市政に取り組んでまいります。

50年ぶりの新庁舎

平成22年5月に、2年余りを掛けて建設してきた新しい庁舎が完成しました。

新庁舎は太陽光発電、地下熱利用、自然換気システムをはじめ、トイレの洗浄水に雨水を再利用するなど環境にも配慮した7階建ての建物で、行政事務の場としてだけでなく、障害者団体が運営する喫茶コーナーや、姉妹都市提携45周年を迎えるドイツのボツパルト市との交流関係の品々を展示したコーナーを設けるなど、市民の憩いの場としての一面も担っています。

築50年近く経過した旧庁舎と、周辺に分散していた行政機能を、新庁舎の建設により集約化するとともに、特に市民が多く利用する窓口を1階に集中配置し、それに

合わせた組織改正を行うなど市民サービスの拠点として利便性を高めてまいります。

また、新庁舎は免震構造の災害に強い建物であり、防災拠点として大規模地震が発生した際もその機能を失うことなく、市民の安全・安心を守る砦としての機能を有しています。

地域資源を生かしたまちづくり

本市は東京都にありながら、自然環境に恵まれた街で、地域資源として、山と川の2つの大きな財産があります。

市の西部には秩父多摩甲斐国立公園の一角を占める御岳山・高水山などの山々があり、それらから連なる緑豊かな丘陵地が市内に広がり、ハイキングや軽登山などに、多くの方が訪れます。



平成22年7月にオープンした新庁舎

一方、市内を東西14・5kmにわたって横断する多摩川は、アユやヤマメといった清流を好む魚たちが生息するほどの環境で、川原の散策やその景観を楽しむことができます。川の上流部は自然の渓谷がそのまま残り、それを利用したカヌー競技やボラダリングなどのレジャースポーツとして有名で、特にカヌー競技は、オリンピック選手を輩出するほど盛んであり、平成25年の東京多摩国体の会場になります。

また、市街地に隣接する丘陵地約

健やかで優しい福祉の街

私は市長就任以来、「暮らしやすさ日本一の青梅市」を目指し、総合長期計画に掲げる市の将来像「豊かな自然、快適なくらし、ふれあいの街 青梅」の実現に向けて、市民とともに歩みを進めてまいりました。

月刊現代や週刊ダイヤモンドの「住みやすい街のランキング」では、それぞれ全国2位と高い評価をいただいておりますが、「暮らしやすさ」の視点の一つとして、健康づくりや福祉、医療の充実は重要な項目であると認識しております。

近年、自然や健康を重視する生活スタイルが流行している中、本市では、自然、歴史的建造物や観光名所を盛り込んだウォーキングコースを設置して、誰もが身近なスポーツとして楽しみながらの健康づくりを推進しています。

また、市立総合病院は、救命救急センターの指定を受け、二次、三次救急に対応するとともに、起伏の多い地形と広い医療圏を考慮して、へり救急にも積極的に対応しております。500床を有する地域の中核病院として、地域に信頼される医療を目指しています。

青梅のさらなる発展を目指して

福祉分野での取り組みでは、本年4月に障害者サポートセンターを開設し、ここを拠点として、障害をお持ちの方へのきめ細かなサポート体制を整えてまいります。

本市も全国の多くの自治体に共通した課題でもあります超高齢社会に直面しており、今後さらに深刻化し、買い物弱者問題などの現象が

予想される中、公共交通の再編を含めた地域基盤の整備にも取り組んでまいります。

市政運営の根幹となっており、現行総合長期計画は、平成24年度までとなっており、現在、次期総合長期計画の策定に向けて、すべての施策・事業の検証を行っております。新庁舎や市制施行60周年の節目を機に青梅市のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 103・26km²
- ◆ 人口 13万8421人
- ◆ 世帯数 5万9226世帯

〔将来都市像〕豊かな自然、快適なくらし、ふれあいの街 青梅くゆめうめ おうめく

〔まちの特徴〕都心から西へ50km圏に位置し、秩父多摩甲斐国立公園の玄関口として、豊かな自然環境に恵まれた都市。地域の中央を東西に貫流する多摩川は、首都圏における観光・レクリエーションの拠点。東部の台地部は、圏央道と国道16号線に沿った日本最大規模のハイテク産業集積の一翼を担う。



青梅市長 竹内俊夫



〔特産品〕青梅せんべい、梅大福、梅干、地酒「澤乃井」、わさび漬、きのこ、酒まんじゅう、どらやき

〔観光〕御岳渓谷、御岳山、吉野梅郷、吹上しょうぶ公園、岩蔵温泉、昭和レトロの青梅宿、青梅赤塚不二夫会館、玉堂美術館、吉川英治記念館

〔イベント〕青梅マラソン、だるま市、青梅大祭、吹上花しょうぶまつり、青梅納涼花火大会、吉野梅郷梅まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



2013東京多摩国体カヌー競技会場予定地の御岳渓谷

過去には瀬古利彦さんや高橋尚子さん、野口みずきさんといった国際大会の代表選手の参加もあり、スターターには、長嶋茂雄さんや石原都知事、杉山愛さんなどの著名人をお迎えしてきました。起伏の激しい難コースとコース沿いの自然に囲まれた景色を求め、全国から2万人の参加者が集まります。

沿道の市民やボランティアとの触れ合いを通じて、青梅の自然、伝統や文化など、青梅の魅力や文化を共有する一大イベントとして定着しております。

わが

「人と人とのつながりから、新たな歴史がはじまるまち」を目指して

はじめに

桜井市は、奈良県の北部、奈良盆地の中央東南部に位置し、山林は市の東部と南部に、市の面積の6割を占めています。奈良市までは、20km圏(30分圏)、大阪市へは40km圏(1時間圏)にあります。

平坦部は、西北部に傾斜しながら大和平野に広がり、大和川の源流地でもあります。

古くは、飛鳥時代以前のわが国の中心地であり、初期ヤマト王権発祥の地、国のはじまりの地として、古代史の魅力溢れるまちです。

また、吉野材の集散地として「木材のまち」や「そうめんのまち」としても、全国に知られています。

将来のまちづくり

本市の人口は、平成12年度以降

本市では現在、遺跡の全容解明と保存・活用を目的として学術調査を継続的に行っています。平成21年の第166次調査においては、当時としては最大の規模を有する大型掘立柱建物を含む整然と配置された建物群が発見され、大いに注目を浴びました。

わが国における、国家の起源にかかわる重要な遺跡として、今後の調査にさらなる期待が寄せられているところです。

商工の取り組み

本市の産業は、木材、そうめん、皮革製品やスポーツ用品などの地場産業が経済基盤の一翼を担っています。しかし、現在の厳しい経済情勢の中で、深刻な状況となっています。これらの現状を踏まえ、



談山神社で行われる蹴鞠祭

減少傾向に転じ、平成17年度以降は、減少がやや緩やかになりました。

その緩やかな人口減少傾向を維持するため、市民が誇りを持つて住み続けたいまちを目指した取り組みを展開し、より積極的な産業振興を図っていききたいと思っています。

そこで、観光・産業創造都市「人と人とのつながりから、新たな歴史がはじまるまち」を目指して、平成23年度からの第5次総合計画を策定しました。

観光のまち「さくらい」

本市は古代ヤマトの中心地であり、日本文化源流の地として記紀万葉に語り継がれた物語の舞台となったところです。纏向遺跡や箸墓、茶臼山古墳をはじめ、古墳時代前期の巨大な前方後円墳など、

遺跡、宮址伝承地が市内に散在しています。

また、日本最古といわれる大神社、平安王朝の女性たちに愛された長谷寺、紅葉や蹴鞠祭で有名な談山神社、知恵の文殊さんで親しまれている安倍文殊院や国宝の十一面観音立像で名高い聖林寺などの社寺や、「山の辺の道」「伊勢街道」などの6つの街道は歴史と癒やして人々をおもてなします。

邪馬台国の有力候補地 纏向遺跡

纏向遺跡は三輪山の北西に広がる3世紀代を中心に営まれた遺跡で、遺跡の広がり東西2km、南北1.5kmと、当時としては国内でも最大の規模を誇る遺跡であります。また、近年では特に魏志倭人伝に記された倭国の女王、卑弥呼が



花の御寺として知られる長谷寺のさくら

都とした「邪馬台国」の最有力地として脚光を浴びています。

遺跡の中には卑弥呼の墓とも伝えられる箸墓古墳をはじめとして、ホケノ山古墳や纏向石塚古墳などの発生期の前方後円墳が点在し、三輪山山麓を南北に縫うように続く山の辺の道から、眼下に広がる遺跡を望む情景には、今なお古代の「ヤマト」の国をほうふつとさせるものがあります。

況は変わらず、引き続き財政再建に取り組んでいるところです。

このような厳しい状況下ですが、将来を担う子どもたちの安心・安全のため、平成21年度から国の交付金を活用して、改築を含む学校の耐震化にも取り組んでいます。また、平成22年4月には奈良県を東西に横断する中和幹線の桜井市

の区間が開通し、国道165号線の渋滞緩和と利便性の向上を図ることができました。

今後も、財政再建を含め、課題も多くありますが、市民が誇りを持って住み続けたい「きらりと光る桜井市」を目指した取り組みを、進めていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 98・92km²
- ◆ 人口 6万1056人
- ◆ 世帯数 2万3697世帯

〔将来都市像〕観光・産業創造都市「人と人とのつながりから、新たな歴史がはじまるまち」

〔まちの特徴〕奈良盆地の東南部に位置し、日本文化発祥の地であり、神社仏閣や「邪馬台国」の候補地「纏向遺跡」は、全国から注目され、女王「卑弥呼」のまちとしても有名です

〔特産品〕三輪そうめん、笠そば、木材、銘木、木製品、はるさめ、皮革・

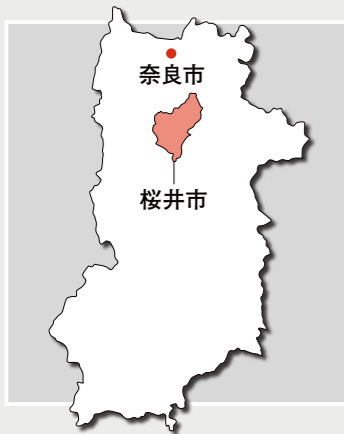
スポーツ用品、靴下、地酒、草もち、和菓子、食肉、出雲人形など

〔観光〕日本最古といわれる「大神社」や、「長谷寺」「談山神社」「安倍文殊院」「聖林寺」などの神社仏閣、さらには邪馬台国の女王「卑弥呼」の墓ともいわれる「箸墓古墳」などの名所旧跡が多数存在します

〔イベント〕大神神社の繞道祭、長谷寺のぼたん祭、万葉まつり、そばビクニック、桜井市ウォーキングフェスティバル、談山神社の蹴鞠祭など



桜井市長 谷奥昭弘



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

安心・活力・支えあい〜みんなで築く自立都市の実現に向け、誇りを持てる郷土へ

はじめに

玉野市は、本州と四国を結ぶ海の玄関口であるとともに、造船業を中心とした「ものづくり技術」という、かけがえのない財産を継承しています。しかし、地方の時代を生き抜くためには、このような既存の財産に満足することなく、地域の個性を生かしながらさらなる魅力を生み出さなくてはなりません。そのキーワードが「市民が胸を張って誇れる郷土・玉野」の創造です。

住みやすさを誇れるまち

宇野港は、24時間眠らない本市の顔として、明治43年の宇高連絡船の就航以来、本州と四国を結ぶ交通の主要ルートとして重要な役割を果たしてきました。しかしな

がら、高速道路料金の引き下げによりフェリー利用者は激減し、平成22年2月には、運航業者が事業の廃止を発表するという最悪の事態が発生しました。航路の存続を憂慮する中、航路の必要性を訴える世論の高まりにより、事業廃止は撤回され、当面は存続されることになりましたが、現在も、安定的に継続的な航路を確保するため、関係自治体、国、学識経験者、そのほか関係者による法定協議会を設置して、調査検討を行っています。



宇野港に寄港した飛鳥II (平成22年11月5日)

また、平成22年は、瀬戸内国際芸術祭が開催され、市外・県外にとどまらず、広く国外からも多くの観光客が航路を利用し、瀬戸の島々を巡る航路の魅力が再認識されたところです。今後も東備讃瀬戸観光懇談会などをはじめ、関係自治体と連携を図りながら「宇高航路」の重要性和島を巡る航路の魅力を全国に発信していきます。

また、近年の高齢化の進展や、路線バスの廃止・減便などによる交通不便地域の増加に伴い、本市においても交通弱者の移動の自由の確保、すなわち高齢化社会に対応できる地域交通システムの構築が重要な課題となっています。

そのため、現行のコミュニティバス事業の効率化などを検討するとともに、市内の公共交通体系の見直しを図るため、平成22年から



原動機付自転車用オリジナルナンバンプレート

健やかな玉野つ子を はぐくむまち

次代を担う子どもたちが明るく、健康に育つ環境の整備は重要な課題であり、安心して子育てできる支援制度を整え、子どもたちが自ら考え、生きるために必要な力を身につける教育の提供が必要です。本市は、岡山県下で初めて小学校2〜4年生の35人学級を実施し、こまやかな指導により確かな学力の習得、規律など生活習慣の定着

に努めておりますが、これに加え、地域の皆さまの協力の下、土曜日

にすべての小学校区「子ども楽級」において、基礎学力の習得に向けた新たな取り組みとして「おさらい会」を実施しています。

また、教育の原点は家庭にあり、家庭教育はすべての教育の出発点です。子どもの健全な育成のためには、保護者一人一人が親の役割の重要性を十分に認識し、親としての責任を果たすことが大切です。

このため、PTA連合会と共同して作成した「親学」パンフレットを市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校のすべての家庭と、これから親になる世代に配布し、親の果たす役割の重要性について啓発を行っています。

市民の活躍を 誇れるまち

地域づくりの基本は人づくりです。地域を支えてくださる市民の方々が、地域活動

ふるさとたまの! ののちゃんの街



まちづくりへの新たな展開—イメージキャラクター「ののちゃん」

に役立つ知識や技能を気軽に学ぶことができる環境を整えるため、平成22年から中央公民館に「地域人づくり大学」を開設し、生活支援サポーター養成講座やNPO法人立ち上げ支援講座など、地域づくりに役立つさまざまな講座を充実させていきます。

また、まちづくりの協働のパートナーである市民活動団体の行う社会貢献活動を財政的に支援し、自主・自立を図るため、既存の補助制度を見直し、個人市民税の1%を財源とした新たな制度構築を進めているところであり、平成23年度から実施することとしています。

さらに、本年4月1日から「玉野市協働のまちづくり基本条例」が施行されます。協働のまちづくりを進めるに当たっては、地域の活動への市民の皆さまの参加が重要になるとともに、市民、市議会、市がそれぞれの役割や責任を理解して、目的と情報を共有し、対等な立場で協力し合うことが大切です。今後、市の情報を分かりやすく公開するとともに、本条例に基づく協働の理念の浸透を図っていき

シティセールス

本市は、平成22年8月に市制70周年を迎えましたが、周年記念事業の一環として、本市出身の漫画家いしいひさいち氏にご協力をいただき、いしい氏原作の漫画の主人公である「ののちゃん」を市のイメージキャラクターと位置付けました。そして今後は、市のイメージの確立と知名度の向上を図るため、さまざま

な手法でこれを活用し、官民協働による積極的な情報発信に取り組みます。まずは平成22年12月から「ののちゃん」のイラストをデザインした原動機付自転車オリジナルナンバンプレートの交付を開始したところです。今後も「ふるさとたまの! ののちゃんの街」をキャッチフレーズに、積極的にシティセールスを進め、本市の知名度アップと活性化に努めていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 103.63 km²
- ◆ 人口 6万5247人
- ◆ 世帯数 2万7849世帯

〔将来都市像〕安心・活力・支えあい
〜みんなが築く自立都市

〔まちの特徴〕瀬戸内海備讃瀬戸海域に面し、直島諸島などの多島美に恵まれ、東西約44kmに及ぶ海岸線と濠洲川海岸など、瀬戸内海国立公園区域を有する美しい自然に恵まれた風光明媚で気候の温暖なまち



玉野市長 黒田 晋



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。